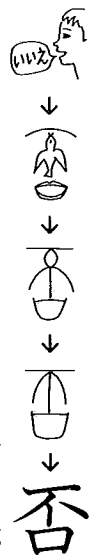


否

六年

筆順 一 ア 不 不 否
3 オン ヒ いな



鳥が飛び去る形を表し、「そうではない」という意味を表した「不(年607)」と、「口(年23)」とを組み合わせて作った字です。

「『そうではない』と口で言う」ことを表した字です。

「いい(いいえ)と言う」ことを表した字です。【例】否定、否認、拒否、否決。

また、「……かどうか」という意味を表すのにも使います。【例】安否、適否、存否、真否、良否、可否、正否、成否、合否、当否。

成り立ち

使い方

▽おかあさんは、ぼくが夕飯のおかずをつまみ食いしたと疑って、ぼくがいくら否定しても、信じてくれませんでした。

▽台風がわたしのおじいちゃんの住んでいる地方をおそったので、わたしたちは、おじいちゃんの安否をきづかって、電話をしました。幸い、被害は大したことはなく、おじいちゃんも元気でした。

熟語例

▽否定(「『そうではない』と言って打ち消すこと。【例】「肯定」)

▽否認(あることについて、違うと言って、それを認めないこと。「警察官につかまった男は、容疑を否認した」などというふうに、つかいます。)

▽拒否(いやだと言ってこぼむこと。「要求を拒否された」などというふうに、つかいます。)

▽否決(提出された議案を承認しないと決定すること。)

▽安否(安全であるか、いないか。)

▽適否(適当か、適当でないか。)

▽存否(存在するか、しないか。)

批

六年

筆順 才 批 批
3 オン ヒ



人が二人並んだ形で、「比べる」という意味を表した「比(年801)」と、「才」を組み合わせて作った字です。

「良い悪いを比べてみて、悪い点に手を加える」ことを表した字です。【例】批評。

しかし、今では「手を加える」よりも、単に、「良い悪いなどの意見を述べる」意味に使われています。【例】批評、批判。

また、上奏文を君主が承認すること、国家の主権者が条約を承認することの意味にも使われます。【例】批准。

成り立ち

使い方

▽世の中には、評論家という肩書きの人がいます。それは、「批評を仕事にしている人」のことです。例えば、文芸評論家とか、音楽評論家とか、批評する分野がそれぞれ分かれています。批評はどきどきでも批評であって、批評する人にそれができるわけではありません。

熟語例

▽批評(評は公平に言うこと。物事の良い悪いをよく見きわめて、公平に意見を述べること。偏った感情的な意見は「批評」とは言えません。)

▽批判(判は物事をはつきりさせること。物事をひき比べ、良い悪いをはつきりさせることを言います。特に、欠点などを指摘することを言います。)

▽批准(物事の悪い所(欠点)を見つけ出して、それを正すこと。また、手直しするように意見を述べること。)

▽批准(准は許すこと。認めること。上奏文を、天子が悪い所を直してその上で承認すること。今は、条約を、国の主権者が承認することに使います。条約の最終的な承認をすることです。)